
俺のシビックが廃車になったわけ

カトラス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺のシビックが廃車になったわけ

【Nコード】

N9132B

【作者名】

カトラス

【あらすじ】

みなさんは、こんな経験しないでくださいよ。後は読んでみてください。

当時の俺は、車と女に夢中だったのね。
それでさあ

高校卒業してすぐに、
自動車製造メーカーに就職したわけ。

半年ぐらいまじめに働いたら三十万円ぐらい貯金ができたのよ。
俺は清水の舞台からとびおりる気持ちで、

その三十万円を頭金にして新車でホンダのシビック買ったのよ。
もちろん、残りは四十八回払いのローンですけどね。

二週間ぐらい待ったら、ディーラーのおっさんが、
自宅までシビック持ってきてくれたのね。

もう、おれは、
嬉しくて、嬉しくて、天にも昇る気分だったな。

それで、俺は毎日仕事が終わると車を
あてもなく運転してエンジョイしてたのよ。

でもね。やっぱあ、
雄の本能とゆうべきか、

助手席に女が乗ってないと寂しいわけ。

だからといって、急に彼女ができるわけでもなく
どうしようかと、無い知恵しばつてみたら

鼻血がでた。

じゃなくて、ツーショットダイヤルと云うやつを
思いだしたのね。

それで、近所の怪しげな自動販売機で
工口本と一緒にツーショット・カード買ったのよ。

早速カードにかかれてる暗証番号を電話で、

入力して、戦闘開始したわけよ。

最初は、女とつながった瞬間、即効切られたりしたけどそのうち、こつをつかんできて可愛い声の女と、

近くのＪＲの駅で待ち合わせすることになったのよ。

どんなあ、カワイ子ちゃん来るのかとドキドキして駅前で車を停めてまっていたの。

でも、約束の時間になっても、なかなか女が現れない。

諦めて帰ろうかなと思っていたら、助手席のドアを

ノックする音がしたんだよね。

俺は来たあ〜と思ってドアのロックをはずしたのね。

そしたら、いきなり女がのりこんできて

「おまたせ〜」っていったのよ

それで、俺は、お顔拝見したわけよ。

そいつの顔は、俺のちよつと起ちかけていたあれを縮ませるのには十分すぎるフェイスをしていたんだよ。

それで、俺はごめんなさいして、帰ろうとしたんだけど、

その女、キレだしちゃって絶対帰らないっていうんだよ。

あんたが、よびだしたんだらうってね。

こいつは、召喚獣かと思っただけど、さすがに俺が呼び出した負い目もあって、仕方なくドライブすることになったわけね。

女にどこいきたいって聞いたたら、夜景がみたいから

ポンポン山行ってよと、おっしゃるわけよ。

こんな女と夜景みてもなあ〜と思っただけど

とりあえず、行くだけ行って、バイバイしようと考え、

ポンポン山に向かったのね。

ポンポン山にむかったんだけど、どうも道を間違えたのが、

細くて気味の悪い道に、はいちゃったみたいなんだよね

道の脇には竹林が生い茂っていて、おまけに霧みたいなものも

でてきて、まるで、あなたの知らない世界みたいな感じだったのね。

このまま進むべきかあ、戻るべきかあ悩んでいたら、その女、怖いこといいだしやがったんだよ。

「わたし、実は靈感あるんだあ〜」

何いってんだこの女、自分が化け物みたいなあ〜くせにと俺は正直思ったね。

女はさらに怖いことをいいだしやがった。

「ちょっと、車とめてえ〜、前に白い服きた女がこっち見てるよ」俺は車をとめて前をみたけど、そんな女いやしない。でも、このシチュエーションだろう。

俺もだんだん怖くなってきて、

バックして戻ろうと車のエンジンをかけた時、女がとどめの怖いことをいってきやがった。

「早く逃げて、白い服の女がこっちにむかって走ってきてるから」うわあ〜〜〜と改めて、

俺はバックギアでアクセル全開でバックしたんだよ。どれくらいバックしただろうか。

気づけば、俺の愛車シビックは、民家の塀におもいつきり突っ込んでいた。

外からは、民家のおっさんが、飛び出してきて

「なにしてくれてるんじや〜」

と怒鳴りちらしてきた。

「警察呼ぶからなあ〜」っておっさんは言った。

しばらくして、警察の人がきて事情を聞かれた。

俺はさつきあった事を説明した。

「お前ら、飲酒とかシンナーやってるんじやないだろうなあ〜」と言って、警察のおっさんは全然信じてくれなかった。

女にも、警察のおっさん、同じことを、聞いていたけど

女は、平気な顔して、お化けなんて見てませんってやがった。

俺は散々、警察と民家のおっさんにしぼられた拳句、

愛車のシビックまで廃車にしてしまったのだった。

幸いだったのは、二人とも、

むちうち程度ですんだことだった。

特に女は、何事もなかったようにピンピンしていた。

さすが、化け物、頑丈にできてやがる。と思ったとき

女が話しかけてきた。

「もう、わたし帰るから、タクシー代頂だい」

俺は、この化け物のあつかましさに、度肝をぬかれた。

こうして俺のシビックが廃車になったのだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9132b/>

俺のシビックが廃車になったわけ

2010年12月8日02時04分発行